

派遣者番号	R4K08	氏名	小林 沙友里
研究主題 —副主題—	児童が自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を深める道徳授業の創造 —道徳的価値の一般化に視点を当てて—		
派遣先大学	帝京大学 教職大学院	指導担当者	赤堀 博行
所属	大田区立馬込第三小学校	所属長	東山 良彦

キーワード：道徳的価値の一般化 自己の生き方についての考えを深める 多面的に自己を見つめる

要旨：平成29年の学習指導要領の改訂で、道徳の時間が特別の教科道徳として位置付けられ、その目標には「自己の生き方についての考えを深めること」が引き続き示された。本研究では、この「自己の生き方についての考えを深める」学習に着目し、児童が自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を確かに想起できるような学習に視点を当て、具体的な学習や指導方法を追究した。具体的な指導方法として、道徳的価値の一般化を取り上げ、その理論や具体的な指導方法を生かした効果的な学習を展開できるようにした。具体的には、児童が多面的に自己を見つめる具体的な学習と指導法を明らかにしたこと、児童が自己の生き方についての考えを深めるために、多面的に自己を見つめさせるための道徳的価値の一般化の事象を明らかにしたことがあげられる。一方で、授業者が道徳的価値の見識を深めることや児童の発言の真意を的確に把握することの重要性も明らかになった。

# 児童が自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を深める道徳授業の創造 —道徳的価値の一般化に視点を当てて—

小林 沙友里

帝京大学大学院教職研究科 スクール・リーダーコース

キーワード：道徳的価値の一般化 自己の生き方についての考えを深める 多面的に自己を見つめる

## I 研究の背景

学習指導要領が改訂され、道徳の時間が特別の教科 道徳（以下「道徳科」という）として位置付けられ、その目標に「自己の生き方についての考えを深めること」が引き続き示された。本研究では、自己の生き方についての考えを深める学習を充実させるために、児童が自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を確かに想起できるような学習に視点を当て、道徳的価値の一般化に着目し、その理論や具体的な指導方法を追究することにした。

## II 研究の目的

本研究の目的は、児童が自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を深める道徳授業を創造するため、道徳的価値の一般化に着目し、その理論や具体的な指導方法を生かした効果的な学習を展開できるようにすることである。

## III 基礎研究

### 1 自己の生き方についての考えを深めることについての考察

「自己」、「生き方」、「考えを深めること」について文献調査を基に考察し、「自己の生き方についての考えを深める」学習を工夫する上の基盤とした。

### 2 道徳的価値の一般化の理論や具体的な指導方法

「道徳的価値の一般化」の文献調査を行い、その理論の理解を深め、具体的な指導方法を考察した。

道徳的価値の一般化の意義は、ねらいとする道徳的価値を一つの事象に限定して考えるのではなく、複数の事象を基にそれに伴う感じ方、考え方を自分との関わりで考えることで、多面的に自己を見つめることである。

多面的に自己を見つめることにより、児童は「ねらいとする道徳的価値について、今までの自分はどうかっただろう。」と、自己の思いや課題を自覚し、自己の生き方についての考えを深めることにつながる。

## IV 実践研究

### 1 研究仮説と手立て

#### (1) 研究仮説

自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を深めるためには、多面的に自己を見つめさせる工夫が有効なのではないか。

#### (2) 研究仮説を検証する手立て

多面的に自己を見つめさせるために以下のような指導の工夫を講じた。

- ① 板書の工夫：児童の多様な発言の背景にある複数の事象を視覚的に明快に板書する。
- ② 発問の工夫：板書に示された事象を視点に児童が自分自身を見つめることができるように発問を工夫する。
- ③ ワークシートの工夫：複数の事象を視点に多面的に自己を見つめられるようなワークシートを工夫し活用する。

### 2 検証授業の概要

- (1) 第2学年の「親切、思いやり」の検証授業では

「人」を事象として道徳的価値の一般化を図った。児童は、「知らない人」、「友達」、「家族」、「一年生」、「先生」を基に、それらとの関わりを振り返り、それに伴う感じ方、考え方を考え、多面的に自己を見つめていた。

## (2) 第4学年の「規則の尊重」の検証授業

「場面」を事象として道徳的価値の一般化を図った。児童は、「電車の中」、「図書館の中」、「劇場や映画館の中」、「商業施設の中」、「公共施設の中」のそれぞれにおける言動とそれに伴う感じ方、考え方を考え、多面的に自己を見つめていた。

## (3) 第6学年「自由と責任」の検証授業

「行為」を事象として道徳的価値の一般化を図った。児童は、「遊ぶ」、「休日を過ごす」、「本を読む」などの事象を基に、それに伴う感じ方、考え方を自分との関わりで考え、多面的に自己を見つめていた。

# V 研究のまとめ

## 1 研究の成果

### (1) 道徳的価値の一般化についての理解を深める

道徳的価値の一般化は多くの授業で活用されているが、授業者が道徳的価値の一般化の意義についての理解を深め、実践を重ねることで児童の多面的な思考を促し、自己の生き方についての考えを深めることにつながる。

### (2) 多面的に自己を見つめる思考を促す学習を展開する

#### ① 道徳的価値の一般化を図る上で視点となる事象を明確にして児童の発言を引き出す

授業者が道徳的価値の一般化を図るための事象を明確にすることで、児童が多様な振り返りの視点をもつ。多様な視点で自己を見つめることで、児童はねらいとする道徳的価値に関わる感じ方、考え方を深めることができた。

#### ② 板書を工夫し、道徳的価値に関わる多様な事象を視覚的に示す

授業者が、児童の発言からねらいとする道徳的価値に関わる多様な事象を整理して板書し、可視化した。板書を工夫することで、児童は自分

が想起した事象だけでなく多様な事象を基に自己を見つめることができた。

### ③ 複数の事象を基にそれに伴う感じ方、考え方を想起させる

授業者は、可視化した複数の事象を基に、児童がねらいとする道徳的価値を自分との関わりで考えることができるようにした。児童は、それぞれの事象に対して、現在の自分を多面的に見つめることができた。

### ④ ワークシートを工夫し、複数の事象を基にそれに伴う感じ方、考え方を想起させ、多面的に自己を見つめさせる

複数の事象を基にそれに伴う感じ方、考え方を記入できるワークシートを使用した。児童は、書く活動を通して自分の体験やそれに伴う感じ方、考え方を想起し、多面的に自己を見つめることができた。

## (3) 多面的に自己を見つめるための道徳的価値の一般化の事象を明らかにする

道徳的価値の一般化を図るための事象が道徳的価値によって様々であったため、内容項目に応じて、道徳的価値の一般化を図るために適切な事象があると考えた。そこで、全ての内容項目ごとに、道徳的価値の一般化を図るための効果的な事象を検討した。

## 2 今後の課題

### (1) 道徳的価値の理解を深める

授業者のねらいとする道徳的価値の理解が不十分であると、それに関わる多様な事象を児童に示すことができない。授業者が道徳的価値の理解を深め、道徳的価値の一般化を図るための事象を明確にして授業を展開する必要がある。そのために、明確な指導観をもち、授業を構想する。

### (2) 児童の発言の真意を的確に把握する

児童の発言には、ねらいとする道徳的価値に関わる事象が明確でない場合がある。そこで、児童に問い返したり確認したりして、どのような事象を基に自分自身を振り返ったのか、発言の真意を的確に把握することが求められる。日頃から児童の言動の背景にある思いや願い推察することが必要である。